

2011年度IBP-B 参加者体験

ポートランド州立大学 (アメリカ・オレゴン州)

2012年2月24日～3月23日

■特にリスニングとスピーキング能力が伸びた。授業以外でも積極的に先生に意見や感想を求めに行くように努めた。そのため、最後のプレゼンテーションの講評を聞きに行ったときは先生の話すことのほぼ全てを理解できるようになっていた。また、英語ですぐに対応できるようにもなっていた。このことは、自分の成長を実感できる経験にもなったし、自分の自信にもつながった。(1年女子)

■正直なところ、自分はまだ1年生でビジネスに関しての知識は浅いが、Intel、NIKE、日本人の経営するカレーレストランを訪問し、様々な話を聞いたことで、自分の知識とビジネスについて学ぶ意欲が増した。Intelでは、そこで働く日本人の話を聞き、文化の違う世界各国の人と交渉し、協力して製品を作っていく難しさを聞き、レストランではマーケティングのSTPや4Pの具体的な話が聞け、今後経営学を学ぶ上での大きな糧となった。(1年男子)

■実習参加前と参加後で一番大きく変わったのが、アメリカの人たちに対する印象である。アメリカの人たちはもっと冷たくて環境は危険だと思っていたが、実際はみんなフレンドリーで優しく、むしろ日本より温かかったし、環境も安全であった。それがわかっただけでも大きな進歩だと思う。(1年女子)

■授業でプレゼンや企業について学んでいくうちに、難しい単語は必要ではなく、いかに自分の意見を相手に分かりやすく伝えるのが重要であるということがわかった。(1年女子)

■この1か月でアメリカの生活に慣れることができ、ホストファミリーの協力もあって快適で楽しい時間を過ごすことができました。日本に帰ってきてすぐに逆ホームシックにかかってしまいました。(2年男子)

